



小江原小学校だより

光満つ丘・空と風

令和7年6月6日号

文責：秋山壽哉

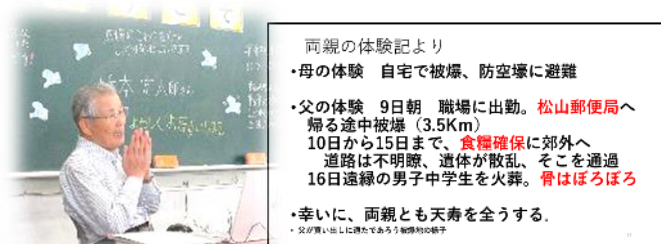


「今、ナガサキに生きる子どもたちへ」

6月3日(火)、5年生を対象に「被爆体験講話」を開催しました。

語り部として活躍しておられる 橋本富太郎様を講師としてお迎えし、「体に残る記憶」や「ご家族やご友人の経験」を基に、「今、ナガサキに生きる子ども」に託すことについてお話いただきました。

あの日、1歳11か月だった富太郎さんは、爆心地から南に4km離れたご自宅でお母様と過ごされていました。空襲警報が鳴り、お母様は幼い富太郎さんを背負って家を飛び出し、防空壕に避難されました。郵便局員のお父様は、勤務中で長崎駅付近におられ、爆風で吹き飛ばされたそうですが、幸い地下壕の中に落ちてご無事でした。



両親の体験記より

- ・母の体験 自宅で被爆、防空壕に避難
- ・父の体験 9日朝 職場に出勤。松山郵便局へ帰る途中被爆(3.5Km)
10日から15日まで、食糧確保に郊外へ
道路は不明瞭、遺体が散乱、そこを通過
16日遠縁の男子中学生を火葬。骨はぼろぼろ
- ・幸いに、両親とも天寿を全うする。
・父が戦い出しに遭ったであろう被爆者の数



富太郎さんは、中学時代から、たくさんの病気やけがを経験してこられ、「記憶はないが、体の中に被爆の記録がある」と話してくださいました。

私の記録と体験

病気の連鎖

放射線による影響か

- ・小学3年 左手を怪我、回復が悪化膿する
- ・中学2年の3学期の直前 腎孟炎の発病
- ・中学3年10月 右手首骨折、骨が脆いと注意
- ・19歳の時、中学の同級生が急性白血病で急逝
- ・39歳の時、高校の同級生が急性白血病で急逝
- ・52歳(被爆50年)で大腸癌の手術
- ・68歳、2度目の大腸癌の手術
- ・74歳、前立腺がんの手術の手術
- ・今 甲状腺がんが見つかり観察中

「学んでください、 知ることで超えられる」



「今の日本は平和だと思いますか」
「原爆とは、富太郎さんにとってどんなものでしたか」
「ご家族は、小さかった富太郎さんを
どのように守り抜いたのですか」

「今の私たちに伝えたい言葉はありますか」
子どもたちとの対話をとおして、富太郎さんは次のことを話してくださいました。

私が、若い皆さんに託すること。

- ・学んで下さい、知ることで超えられる。
学ぶことで、進む方向、答えが見つかる
- ・「平和を大切に、守ります」と、唱えてもだめ守れません。
武器は、兵力でなく知力です。
- ・行動してください
「微力だけど無力でない」のです。

富太郎さんからのメッセージを、小江原っ子は心に刻み、そして行動することを大事にしながら、「平和の創り手」の主体者として歩んでいきます。

「人権学習・平和学習」

今回は、5年生の学びを中心に「平和学習」についてお知らせしました。

1年生から6年生までの全ての小江原っ子が、年間を通じて「人権学習・平和学習」について学んでいます。

ご案内の通り、6月28日(土)の土曜参観(学校公開)日には、調 仁美様をはじめとする平和団体「ピースバトン・ナガサキ」の皆さまと共に、平和に関する対話的な学習を行います。

ご都合がつかれる保護者・ご家族、地域の皆様は、どうぞ、ご参観くださいますよう、お願いいたします。